

ワークハウス コムラード 事業報告

令和2年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和2年3月31日現在

事業名	定員	現員
就労継続支援B型	定員20名	28名（男性17名、女性11名）

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

年齢	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～	計	平均
男性	1	1	5	8	1	1	17	41.8
女性	1	3	3	1	3	0	11	35.3
計	2	4	8	9	4	1	28	39.2
%	7.1	14.2	28.7	32.2	14.2	3.6		

イ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未判定	計
男性	0	2	3	2	0	0	10	17
女性	0	0	5	0	0	0	6	11
計	0	2	8	2	0	0	16	28
%	0.0	7.1	28.6	7.1	0.0	0.1	57.2	100.0

ウ 精神障害者保健福祉手帳・療育手帳・身体障害者手帳の所持状況

	精神障害者保健福祉手帳					療育手帳				身障手帳	
	1級	2級	3級	なし	計	B	C	なし	計	3級	計
男性	1	5	1	10	17	6	3	8	17	0	0
女性	0	5	1	5	11	1	3	7	11	1	1
計	1	10	2	15	28	7	6	15	28	1	1
%	3.6	35.7	7.1	53.6	100	25.0	21.4	53.6	100		

エ 利用率の状況

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	21	18	22	21	18	20	22	19	20	19	18	23	241日
延利用人数	298	253	259	245	201	229	300	242	324	301	287	343	3282人
利用率	71.0	70.3	58.9	58.3	55.8	57.3	68.2	63.7	81.0	79.2	79.7	74.6	68.2%

オ 職員体制

職種	配置人数	備考
管理者	1	サービス管理責任者兼務
生活支援員	1	
職業指導員	1	
目標工賃達成指導員	1	

運転員	1	法人内他事業所兼務
事業計	5	

業

2 重点実施事項

(1) 経営基盤の確立

事業所開設以降、久喜市近隣市町村および障害者支援センターに利用案内ならびに広報の協力要請を継続しております。本年度は16名の体験利用者のうち8名が本利用につながり、利用契約者は28名となりました。新型コロナウイルス感染防止のため通所の自粛を希望する利用者が5名おりましたので、在宅支援を実施して利用率が落ち過ぎないようにしました。利用率は年度末現在で74.6%です。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 基本的な生活習慣

挨拶や健康についての簡単なマニュアルや既成のリーフレット等を掲示して自律を促しました。また、今年は感染予防やニューノーマルの生活様式についても注意喚起しました。

イ 生産活動

各々の能力に見合った作業に取り組めるように生産工程を細分化する、分かりやすい図や数値を掲示する等の支援をしました。また、利用者同士の相性を考慮して作業中のトラブルの軽減を図ったり、毎回座席や作業グループを変えて仕事に飽きない工夫をしました。自主製作品の作成も継続していますが、販売の機会が激減しているため工賃増に寄与するには至りませんでした。本年度の工賃支払い状況は表のとおりで、平均工賃は、10,193円/月で昨年並みとなりました。

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月
支給額	165,489円	49,019円	79,344円	179,825円	197,100円	177,166円
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
152,223円	148,993円	874,024円	208,778円	205,529円	240,574円	2,678,064円

ウ 就労支援

就労支援センターの協力で1名を対象に企業見学や短期訓練を実施して、障害者雇用制度を利用し就職することができました。

エ 余暇活動

ご本人自身で自由に余暇を楽しめる利用者が多いため季節行事は実施しませんでした。

オ 健康管理

希望者に健康診断を実施しました。また、相談事や心配事がある利用者に対してはその都度話ができる機会を設けて、不安や混乱が大きくなるように対応しました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務内容の整理

業務分掌を明確にし、業務の効率化を図りました。

イ 心身の健康への配慮

健康診断、ストレスチェックを実施して職員の心身の健康が損なわれないように予防に努めました。特に指摘事項のあった職員はおらず、事故、労災もありませんでした。

ウ 年次有給休暇の取得促進

職員間で予定を早めにすり合わせて年次有給休暇を年間 5 日以上取得することができました。

(3) 人材育成

ア 研修参加状況

研修名	主催	期日	場所	参加者
就労支援フォーラム NIPPON 「ひるむな、私たち。」 (リモート)	日本財団	8/24~26		岡本、大出、小田部
新任職員研修	法人	9/10	久喜けいわ	岡本、大出、小田部
JIC 防災研修 (リモート)	株式会社 JIC	11/6		小田部
就労支援フォーラム NIPPON 「THE ANSWER」 (リモート)	日本財団	12/12、13		岡本
主任主査研修 (リモート)	法人	12/4		岡本、大出、小田部

イ 毎日の打合せや職員会議、ケース会議をとおして利用者各々への理解を深め、上記研修に参加して仕事への意識や知識、技術を養い支援にあたりました。

(4) リスク管理

ア 研修、自己点検、職員の相互確認等で、虐待の防止に努め、利用者と一緒に虐待について考える機会を設けました。

イ 避難訓練を 2 回実施し、備蓄の災害用物品については利用者と共に置き場所や使用方法を確認しました。また、災害伝言板のテスト利用や備蓄食品の試食等、より具体的な訓練を行い、防災意識を高めました。

ウ 新型コロナウイルス感染防止のため、手指や備品の消毒、アクリル板の設置、時間差による休憩時間の設定等を行いました。また、緊急事態宣言発令中は公共交通機関を利用しなくても通所できるように、利用者を自宅最寄り駅まで迎えに行けるように送迎車ルートを変更しました。

(5) 地域交流

ア 本年度は感染防止の観点から、地域交流は行いませんでした。

(6) 事業運営

ア 利用率の向上と収支の均衡を図る

利用率 85%の到達を目指しましたが、達成には至りませんでした。年度の前半はコロナ禍のため見学や体験、利用希望者勧誘のための行政等への訪問を制限したため思うように新規利用契約者を増やすことができませんでした。

イ 支援体制の整備

事業所内での会議はもちろんのこと、利用者を良く知る支援センターや他の福祉サービス事業所や医療機関とも連携し情報を共有しながら支援を行いました。

ウ 生産活動の計画

(ア) 農作物の生産

昨年度に引き続き、埼玉県が実施する障害者農業参入チャレンジ事業に参加し、埼玉県農林公社から技術指導と資材の提供を受け、玉ねぎの栽培に取り組みました。しかし、圃場と事業所が離れていること、夏場の日中に活動しなければならず熱中症の危険があること、農作業担当を希望する利用者がいないことから、この事業は本年度で終了することにしました。

(イ) 企業からの受託作業

利用者が徐々に増える中、新しい受託作業受注先を 1 件獲得し、非常事態宣言が発令された時期以外は受注量も増えています。新規利用者は受託作業のみの参加を希望される方が多く、今後もこの傾向は続くと思われま

(ウ) 自主製品製作

昨年度から始めたアクセサリー作りに引き続き取り組んでいます。試行錯誤は続いています。意欲的に取り組む利用者がおおり工夫を重ねています。ただ、出来上がった作品を販売する機会であるイベント等がほとんど中止になってしまいました。